

琉球大学学術リポジトリ

[記事](研究発表会要旨)リュウキュウマツの有効利用 と材料管理

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊波, 正和 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017252

リュウキュウマツの有効利用と材料管理

沖縄県工芸指導所木漆工課

○伊波正和

リュウキュウマツは沖縄県の森林資源の中で第2位の材積量である。第1位のイタジイがパルプ用のチップ、街路樹の支柱、ホークリフトの盤木やシイタケのほだ木などに利用されているのに対し、リュウキュウマツは土木工事に用いる矢板以外にはほとんど利用されていない。また、リュウキュウマツは材径の大きいものがそろっていて小径木の多い県産材の中では圧倒的に歩留まりがよい。さらにリュウキュウマツは琉球列島固有の種であり、沖縄県の県木にも指定されているなど地場産業的要素を多く持った材料である。このリュウキュウマツの木材としての有効利用を図るための材料管理について提案したい。

リュウキュウマツは木材乾燥の段階に於いてブルーステイン（青いシミ）が入りやすく、ヘアークラック（表面割れ）が起こりやすい。ブルーステインはリュウキュウマツ本来の白っぽく上品な木肌を活用するには最大の妨げとなる。また、ヘアークラックは挽物などの工芸品の木地としては致命的な欠陥となる。

ブルーステイン及びヘアークラックが生じないでリュウキュウマツの材料管理ができないものを①天然乾燥での管理、②人工乾燥による管理、③伐採時期と材料歩留について検討した。

試験結果よりリュウキュウマツの材料管理の要点として次の提案を行いたい。①生材から人工乾燥等で早めに木材含水率を20%程にし青変菌対策をする必要がある。②厚材は割れやすいので、木口、節、板目面は酢ビ系接着剤でコーティングし割れ防止をする。③30mm以下の薄い材はほとんど割れの心配はない。④防かび剤は材表面には効果があるが、材内部のブルーステインもかなり少なくなる。⑤伐採時期は1月頃が材料歩留まりがよい。

リュウキュウマツは伐採後1週間以内に製材し室内保管することが第一である。材厚が30mm以内であれば通風のよい室内に、できればはく皮処理、防かび剤処理をして保管することである。30mm以上の材厚になると高含水率状態が長く続くので、人工乾燥や送風等により早めに含水率を下げる必要がある。また、30mm以上の厚材になると素面割れが生じやすいので、木口面、節、板目面における木理の山稜ラインを酢ビ系接着剤でコーティングすると効果的である。